

元禄刊萬世家宗

萬世家宗

222

庫	文	閣	内
九	天	六	和
函	六	八	書
一	五	六	類
架	冊	號	

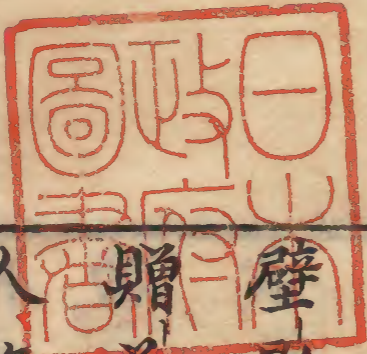
(一木)

儒家五二

内閣文庫	
番號	和 16686
冊數	5 (1)
函號	190 222

190-222





万世家寶序

林葉秋深檐聲雨踈燈花更闌

壁影身歎茲時展舊卷慘不言

贈答十人我獨存兵就中有故

人復信子之所著之書一帙皆

人並委己接人之間安而不忘

危存而不忘亡之遺戒也斯人

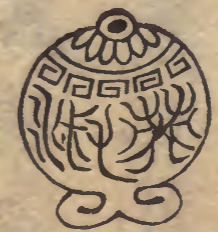


100-555

昔在溪月斜時偶來投此書於
我曰此是閑窓之隨筆而不省
他之嘲者唯我與汝為葫蘆之
助而已相俱讀可之非之或笑
或戲今也屈指數星我已十三
今年甲戌之高猶環一挽支與
時回矣嗚呼使我白鬚不乾者
爾ルハ

以形容目在色澤我新也四月
印本子來請壽梓我妄意授之
以廣復信子之直意其和俗之
文重複之語雖近卑俚其誘勸
之旨貞實之情有可貴重也可
不可者從入之取捨毀譽者任
世間之好惡於是亦書

昔元祿七年太平之月南海之
 鶴間犬尾山下之漂泊子把筆
 浪速之不洗齋



古の物語事

古ハ文武あはれと鳴り古來の従ひて文と
 武とハ車はあはれなり。文と武とハ
 わつと文と武とハあはれなり。古の道は
 あはれと武とハあはれなり。古の道は
 向の道はあはれなり。古の道は
 或ハ古の道はあはれなり。古の道は
 の道はあはれなり。古の道は
 い事と武とハあはれなり。古の道は
 古の道はあはれなり。古の道は

よんやとりりふん 此ハももあつていふやうな事ゆ
ごもあまの字れんとあつた唯文とばははと
能くとも地とく書とつてゐるよのつひ
の懸とのこくちり或ハちり字又まるとして
書籍と撰つとんくハおあら伏の形はありと
物よりあまみ又経氣未練やて人と罵怒
まゝ此のに徳官と斬屠財とより目とんを
んろえらぬいとのごのせうらとく百姓町人
等とせまげむと悪と逞とよりとんくハ好氣者
うれとああわづらわるとは是とらとありとあひと

仁智ハもくなく殺伐ハありあつてわらへ
あやしり基ハありぬ凡文とりの古の聖賢の
道ありとてハ老練の道とてハ安穩な
平とつてハ忠孝仁義と専ら。牙城
彼ああと母へ子孫相續世代あつてと
求んと欲せば愛の書とまひとてと明ん
せんば成就とるや。武とりの七言等り
戒先とける道厚とく徳知り敵陣よむら
て大切とあつとりあり。弓と射馬と宗。大方派
はふハ武の藝あり。大方と古率もこれとあつ





と卑ひもろろり。夏なつは禹うの命のみことあてて民たみと安やすし
 才さい一の賢けんあり。それハ上かみ者ものと死しハ下した者ものあり。あ
 りよ。はたをわどり。政せい道どうまじり。ひとあり。
 いんや氏うぢと虐あやむて財さいとむさかり。保たも膳ぜんと好このも。湯ゆ隷れい
 とまとのひ。さのこ男おとこあり。宮みや室むろとひろく。氏うぢハ耕か
 作さくる力ちからとろく。飢う渴かつのうれへ。男おとこよせま。りて。貢こう
 々さ年としこよす。くなく。との者ものハ月つきく。よ。さ。あり。ゆ
 わ。よ。後のちよ。回まわ家か衰し微びして。遽いそに先ま世よと改あらん
 也なり。とろハ。湯ゆよのそん。ハ井いとあり。ふ。同おなく。才さい三さんあり
 徳とく慎しん。文ぶん王わうの大だい智ちあり。と。心こころと小せうと。翼よくこ。と。り

千載のほ聖。ち揆豈二わらんや。まこと文王ハ
聖人あり。聖人より我意とちとせびくん
とせめて。聖人ことほきあり。千年のほまてん
の君より。操ハ二つあり。いんや。聖人より。まらん
まのめくさや。さ明ハ大備あり。て。細勢ハ
控忽るや。や。事。よくあり。久。凡。大。心。さ。お。ハ。
下。此。情。と。さ。も。我。よく。大。備。あり。と。ち。あり。ひ。く。
下。乃。さ。人。と。甲。と。も。も。信。臣。ハ。君。の。心。よ。入。さ。せ。
賢。君。の。や。う。ま。い。ひ。て。さ。守。ゆ。よ。さ。そ。ハ。我。心。の。と。
く。ち。ま。れ。り。と。ち。あり。お。れ。に。心。ゆ。り。人。は。ま。さ。ち。ち。れ。

よ。ち。や。く。あり。て。と。の。づ。う。細。あり。勢。を。怪。忽。よ
なる。り。あり。夫。仁。ハ。屬。さ。る。と。三。行。り。才。一。よ
説。と。避。後。所。ハ。後。倭。面。諛。り。能。は。る。さ。る。則。
仁。君。の。宜。慶。幸。ま。ら。さ。所。よ。わ。ら。ば。と。り。後。
若。ハ。我。軍。と。換。む。り。と。り。て。君。と。害。さ。る。り。
と。ち。く。人。と。説。を。ん。と。さ。る。と。の。ハ。先。君。の。心。と
や。ら。君。の。心。と。ら。ん。と。さ。る。ハ。よく。君。の。心。よ。好。む。と
ころ。と。ま。り。て。ま。好。む。所。と。は。れ。と。好。む。白。紙。よ。卷。
なり。れ。く。ハ。假。よ。仁。義。と。さ。さ。て。実。か。く。め。られ
に。ま。さ。れ。る。と。の。非。ち。り。と。ころ。と。よく。名。前。征。接。

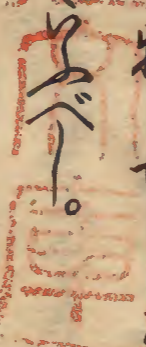
万世家寶卷一

とぞりて表裏とあすゆへよ。若わされ此の儀
アセアそそ奉用也。故に後ハ此よあはわらる。此
儀ハ微りてねん大あり。く見わさるあぢんは
こも様とさうぶらり。ほつら諸膚受の想と
とそり。んよ若らりは先表裏の臣とさるべし。
表裏の臣とさるおは我マかりうとねり。此
乃親よ入ら若らんと付く。実う不実くと見明
らじ。此を此ハ儀とのつらうり。弟ニよんと愛
此。仁の人と若らる智の人と知。先聖の格言固
よ。仁智の大別なり。此凡若とてハ氏とさるし。

氏ハ若とて父のどくさうとら。上。下。仁よ。若
此。根。深。なり。かくのどくさく。國。家。か。さ。ま。さ。
ふ。事。あ。ん。や。此。つ。ひ。つ。み。若。臣。と。さ。る。と。仇。敵。を
とく。此。ゆ。へ。よ。臣。若。と。さ。る。と。虎。狼。の。ど。く。か。
く。ど。く。さ。く。國。家。か。ら。び。さ。る。事。あ。ん。や。人。の。若。
して。人。と。愛。さ。る。と。若。よ。若。と。さ。る。と。殺。伐
と。若。と。若。罪。の。さ。う。り。さ。と。若。若。若。若。若。
う。き。と。ば。重。さ。る。事。仁。の。一。端。よ。つ。ら。ど。若。若。
た。夜。漢。高。の。量。と。腰。て。さ。り。若。若。若。若。若。若。
ハ。則。は。世。の。一。仁。若。也。平。漢。の。若。若。若。若。若。若。

万世家寶卷一

平げ。咸陽不穀の財とて。とゞく。て。氏よ。か。ど。
う。宮内。の。義人。と。怒。り。項羽。が。賊。と。し。き。かり。約。
と。生。ぐ。一。と。こ。り。て。と。暴。悪。と。害。し。流。よ。ま。ち。と。
平。心。也。と。志。量。恢。は。大。よ。仁。政。と。氏。よ。む。じ。う。ち。
し。ゆ。よ。寛。仁。大。度。の。君。と。や。め。ら。り。人。よ。君。と。り。と。
ん。ひ。ろ。く。ち。あ。て。物。よ。せ。ま。う。さ。ふ。と。さ。る。程。の。と。
く。あ。ら。ば。仁。君。と。い。べ。い。
夫。勇。よ。厲。り。と。定。り。あり。才。一。勤。勞。夏。高。の
勝。臆。周。公。は。吐。握。義。と。ん。く。乃。名。ハ。人。君。の。勇。
なり。夏。の。禹。王。ハ。滅。よ。天下。の。水。と。治。め。く。也。是。よ



勝。臆。と。え。ん。也。才。と。勇。一。思。と。集。つ。ゆ。は。形。と。し。
十。二。年。我。つ。と。これ。も。放。て。の。ど。夜。合。と。為。
して。孝。と。冠。神。よ。り。宮。室。と。卑。志。く。費。城。
講。成。よ。治。よ。と。り。行。世。の。人。君。と。い。事。ハ。遠。よ。
也。久。も。固。執。と。流。く。よ。禹。王。周。公。の。ゆ。あり。ば。ん。
ぞ。く。る。ゆ。わ。ん。や。飲。酒。遊。樂。よ。身。と。倦。一。困。
乃。は。の。氏。の。賊。と。き。く。ざ。ら。ハ。勇。ま。は。の。人。なり。ん。
才。一。諫。と。聽。進。言。の。君。と。知。志。ハ。初。を。り。強。也。
久。も。行。く。徳。を。ん。と。勇。也。故。よ。勇。子。厲。也。凡。君。
臣。の。徳。と。く。害。て。我。行。徳。と。わ。く。さ。し。也。是。の。



十一
びーりまの長と。あまといひく下は。今
とさく。あまの流る。びーりまの比。魏徴
薨せ。た。た。た。一。程。わ。ら。び。ら。と。の。あ。ひ。
と。あ。と。い。め。あ。せ。一。忠。臣。さ。り。さ。り。さ。れ。は。小
別。大。別。ま。う。の。老。賊。わ。た。事。な。ら。う。の。あ。
と。下。ら。ら。に。あ。て。と。う。罪。と。凍。下。の。忠。と。戒。じ
ほ。ん。ら。だ。ん。所。く。身。と。か。め。か。も。私。慾。の。念
か。く。盗。酒。と。ま。り。ぞ。け。奢。侈。と。止。め。下。臣。の。邪。心
と。辨。一。安。れ。も。あ。や。う。と。言。ま。は。ん。災。害。災
来。あ。ら。う。に。あ。せ。く。さ。い。こ。患。寤。も。寤。て。と

擧ぐるのあ。ま。う。に。將。身。よ。長。じ。偏。信。よ。成。る。と
ま。れ。羨。色。と。あ。い。我。方。よ。あ。よ。よ。侍。と。ば。ま
役。は。堪。ぶ。る。と。も。拳。勇。ひ。肥。馬。の。塵。さ。ら。う。の。お。り
れ。抱。身。と。ま。し。り。と。ば。奉。り。と。あ。ひ。て。お。衆
よ。り。と。う。一。好。と。に。あ。と。め。わ。れ。た。下。臣。の。あ。ま
と。の。事。も。あ。ら。う。も。か。ら。あ。ま。り。あ。く。あ。く。
我。い。う。あ。ら。う。の。擧。り。と。ま。り。と。あ。ま。り。あ。く。あ。く。あ。く。
小。園。と。ま。り。あ。ま。り。と。ま。り。あ。く。あ。く。あ。く。あ。く。
見。お。の。埋。火。の。下。よ。あ。ま。り。あ。く。あ。く。あ。く。あ。く。
ら。う。あ。ま。り。あ。く。あ。く。あ。く。あ。く。あ。く。あ。く。あ。く。

万世家賢卷

月と忠勤の誠より果は為の字唐とあり
先よそのスるも然しとさひ若身れ作ら
れ好む人し。されば君明くあり時ハ人
よりあひびく奉用く長臣と長臣ハ徳君
忠とありてお温お写して秋正とさし
お家長久なり若君と対ハ臣と用らに控
み臣と忠義とさしとさしお暗お考ま
國家終よ廢る又家とつて一長臣ハ
よ忠とさして奉用せしむる子お續く
職とおありあり子よ孝行と記又父の

於し君の恩と能く奉ひくも子れ徳大
なり。さし忠勤とさしとさし
とさし忠勤とさしとさし忠勤とさし
臣と若親人となり。君ハ秀て百
乃るより人ハこれありて君の心とさ
取く勤はまこととさしとさし忠勤と
さし忠勤とさしとさし忠勤とさし
乃縁とてお敵らくありて。さし忠勤と
さし忠勤とさしとさし忠勤とさし
れ。忠勤とさしとさし忠勤とさし
れ。忠勤とさしとさし忠勤とさし



敵とんく進め先私の謀とうまげ身と合
 ともと上の初と守。又大ののやわくを
 ひそくをよくかりれ。立身しては海の右
 に拘りどを忠心としては必ず始肩として
 だう侍もこれと始をひじらるゆまを意
 乃をなさだめるそとまのかどになま地
 初人とば学知とあく生知とありては後
 辨まとあらまであわだならふ者の賢明を
 人のして私わくとそんとしては彼人わらま
 こそ後とありて是と害せんと欲す秀

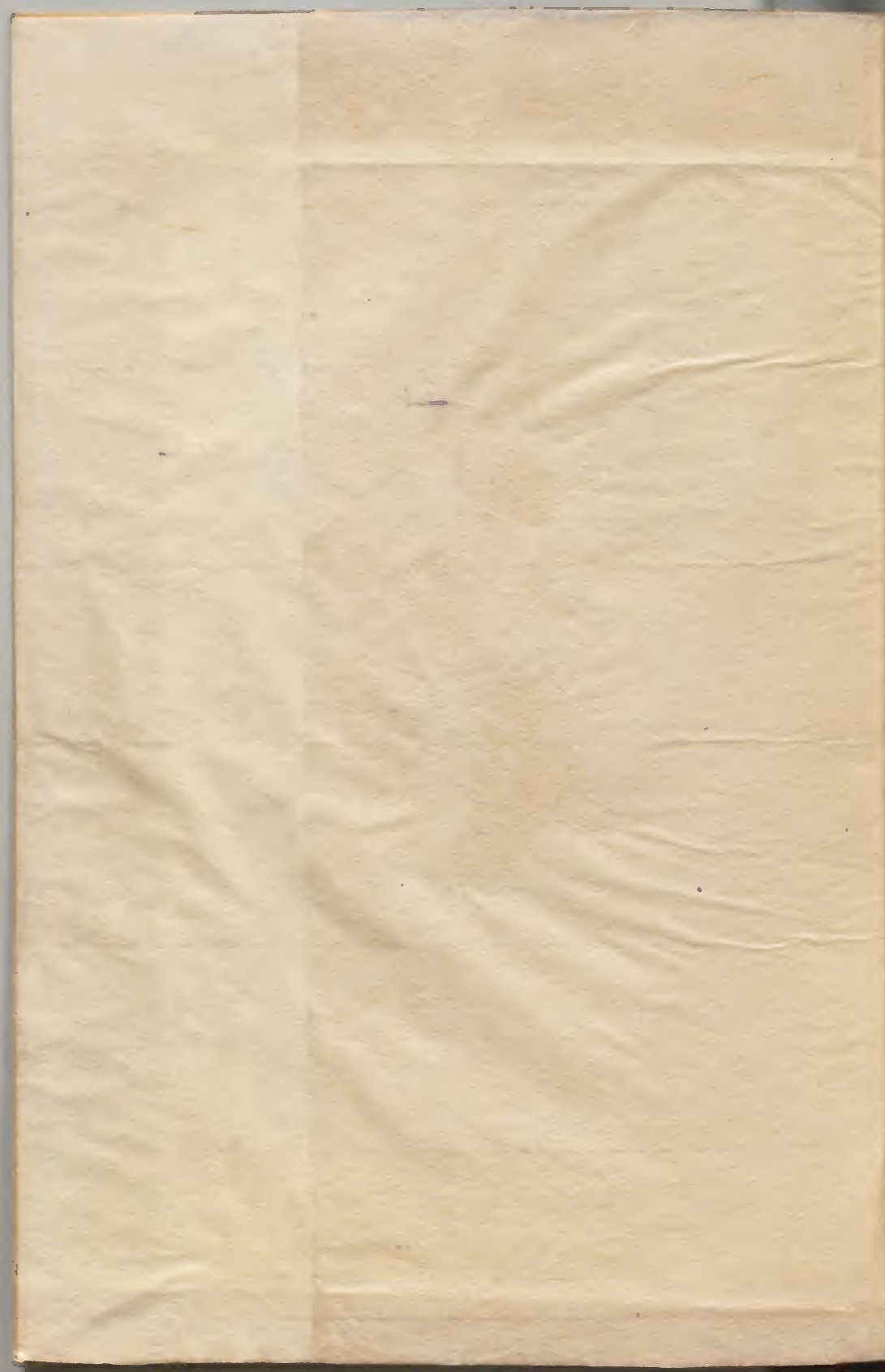
榮えぬ世にまほ子倒ゆらん人ぞにあらむ
 悔ともなきをらんかくのこゝろおほ人ハ時
 かとららん先人の慶貶と夜や傍輩と怨
 へべし元於此悔ハ人の常法をわごと解と貪
 魚の物とえざらん私慾の甚しきは海也
 又男又の物然とみおとむくを訓がねなり
 ねふまよハよほどさる知と賜て人の上よらん
 され能すれらんハ幸ハ常人の徳とけ
 けよりハ親あつこいよま志のま國乃為らん
 寧ろさありあされんハたも楯をらんままぐ

あり武よこく々々らつらまもふらん
 毀らして子孫の業ハ知のさへはらむ
 ころ秋の又まもむ楯もまもらん何んもあれ
 夕暮れはまもむかひくを悟わらんまもらん
 世俗の儀ハ位牌知らんよハ先祖の武切を
 わらん又一層の忠勅ありてまもよのりつ
 子孫まもむ祖の威光をておらんを徳也
 ころとらんけは我々の耐やと武をまもらん
 どのいづつとむなるん又ハ武切を記よ
 ころ備後をらん又ハ父よからんあまも我ら

らまハガシメク。さう知ハみ社の威光を承取な
う。まも知れり。の勅字に人よ。御一めらる。は
らまら。このどく。らる。に。そ。又戒の終
み。御務。なら。なり。なり。と。親の知れと
そのま。ら。ら。と。位牌。知り。と。み。も。わ。せ
御辱。とも。悪。ふ。さ。さ。事。あ。れ。都。の。及。理
より。み。ま。ば。位牌。知。行。と。一。位。悪。臣。の。恩。惠。の
現。前。に。あ。る。れ。い。ふ。と。あ。ま。ご。悪。ら。い。り。と。そ
親。よ。何。あり。と。そ。知。と。つ。り。と。ま。み。ハ。が。わ。り。
僕。よ。ま。ま。さ。と。そ。知。り。と。な。ら。う。は。何。の。ま。の。と

一げま。あ。く。そ。ま。え。ば。御。多。と。付。く。と。ま。ら。と。わ
御。と。ぬ。く。ま。物。と。煮。く。と。く。高。の。市。は。交。ハ
浅。は。ら。と。此。ハ。毛。さ。ら。び。我。利。と。人。よ。あ。ん
ら。ふ。あ。り。と。そ。ハ。人。悪。と。い。ん。不。仁。悪。と。い。ふ
一。又。位。と。七。ハ。父。社。の。知。り。と。の。ら。り。ま。ま。と。に
ま。初。の。く。く。後。ら。と。ひ。く。み。社。の。賢。明。派
知。ま。り。と。そ。お。ら。る。最。大。事。に。あ。ら。あ。ま。ま。ら
と。ま。ら。と。あ。ま。ら。と。く。と。あ。社。よ。ゆ。づ。り。と。ま。子
ふ。忠。あ。ら。ば。そ。又。み。社。と。け。り。志。の。恩。と。周。ら
なり。く。ま。有。ら。り。ハ。誠。よ。御。辱。の。位。牌。知。り。ら





Handwritten text in vertical columns, likely a list or index, written in a cursive style. The text is faint and difficult to read. The page is framed by a double-line border.

